

Glyphs Mini

& イラレで フォント デザイン

～ アルファベット 大文字 編 ～

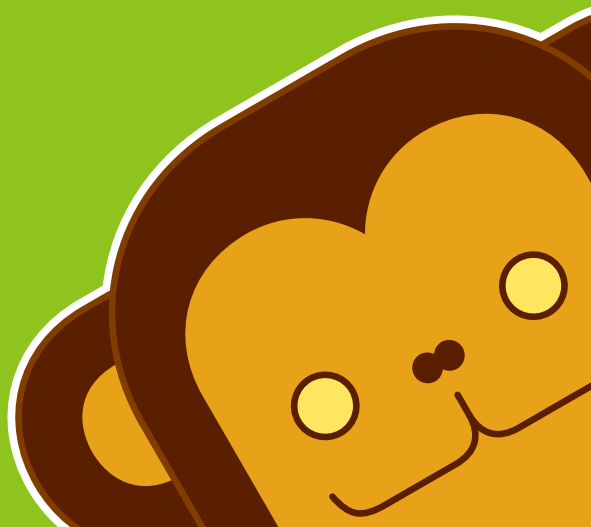
ANGEL VIBES 著

Glyphs Mini

& イラレで フォント デザイン

～ アルファベット 大文字 編 ～

ANGEL VIBES 著



GlyphsはGlyphs GmbHの登録商標です。
Adobe、Adobe Illustrator、Adobe InDesign、Adobe Photoshopは、Adobe Inc. の米国およびその他の各国における登録商標です。
AppleおよびMacintoshはApple Inc. の米国およびその他の各国における登録商標です。
MicrosoftおよびWindowsはMicrosoft Corporationの米国およびその他の各国における登録商標です。

INTRODUCTION

「FONT PAVILION」が忘れられない。「FONT PAVILION」は、かつて、デジタログ社からリリースされていたフォント集である。

それは、アンソロジーの音楽CDのようだった。幾人かのデザイナーの手によるフォントが銀色の円盤に収められていて、見本の小冊子がクールだった。シリーズ第1集目はツツツツなライトグリーンのパッケージだ。当時の「新時代」を感じさせてくれた。1990年代のデザイナーに刺さらないわけがなかった。

フォントってもっと自由でいいんだな。そんなふうに使わせてくれた「FONT PAVILION」シリーズだったが、すでにリリースは終了している。デジタログ社も、もう、ない。

けれど、フォントは眠らない。今も新しいフォントは生み出され続けている。ネットの海にも、街角にも、新しいフォントたちが漂っている。

いつの日か、フォントというテクノロジーがなくなってしまうかもしれない。それでも、デザインした文字の形は、きっとどこかに残っていくのだと思う。文字のリズム、文字のメロディ、バビロニアの石にだって、私たちはその痕を見つけることができるのだから。

フォントの新しい可能性を信じている。「FONT PAVILION」の思い出を胸に。

フォントデザイナー／アートディレクター
ANGEL VIBES

Contents

INTRODACTION	03
この本について	06
Chapter 1 フォントの基礎知識	07
1. 「フォント」とは何なのでしょう?	08
2. 「グリフ」にフォルムを与え「フォント」と成す	09
3. アルファベット書体の基礎構成	10
Chapter 2 Glyphs Miniとは	11
1. フォントデザインの方法は複数あるけれど	12
2. フォント編集アプリ「Glyphs Mini」ってどんなアプリ?	13
3. Glyphs Miniの使いごこちは?	14
Chapter 3 フォントデザインの手順	15
1. フォントデザインのおおまかな工程	16
2. それぞれのSTEPについてのまとめ	17

Chapter 4 実際に作ってみる・前編 19

1. ラフスケッチ▶フォントの図案決め 20
2. ラフスケッチをトレース・清書 ▶下絵作成 22
3. 下絵をスキャン▶「下絵 PSD 画像」作成 23
4. 「3」をトレース▶「ベース・ベクター画像」作成 24
5. 「4」を取り込み用に編集▶「取り込み用ベクター画像」作成 26

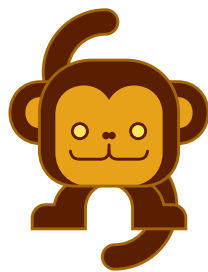
Chapter 5 実際に作ってみる・後編 29

6. Glyphs Miniの設定をする▶フォント編集・下準備 30
7. Glyphs Miniに「5」を取り込む▶フォント編集・前半 36
8. スペーシングとカーニングをする▶フォント編集・後半 40
9. フォントファイルを書き出す▶フォントの完成 44

Column 「文字迷Q」

- (1) 「グリフ」と「グリフ」の間 18
- (2) 「em スクエア」は、活字の深淵に 28

資 料 45



この本について

本書は、フォントデザイン初心者の方に向けた解説書です。フォントデザイン、それも、「基本の作り方」を知っていただくというのが、本書のねらいです。今回は、極力基本的な解説に留めたいので、アルファベット大文字のデザインを学ぶ、「アルファベット大文字編」とします。

本書の元ネタは、筆者のブログ「FONT×DESIGN 基本の作り方」にあります。少しでも読者の皆さんに解りやすく伝えればと考え、書籍化を機に大幅にリニューアル・加筆修正しました。

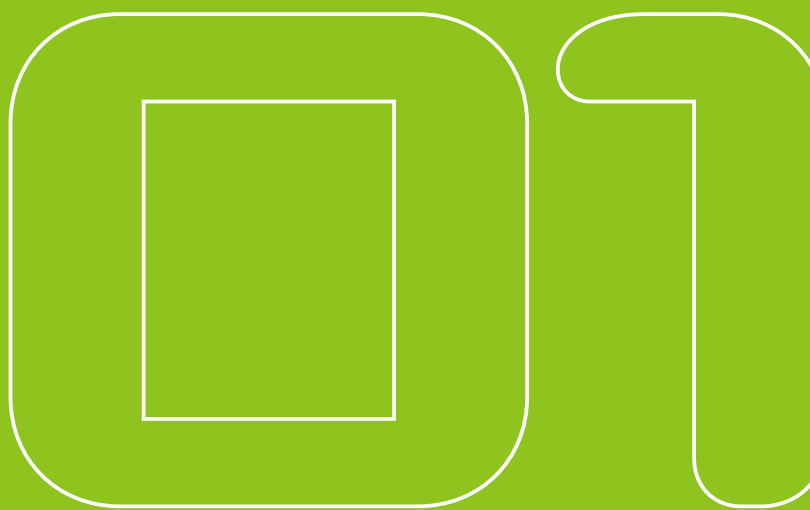
本書では、おなじみ Adobe Illustrator と、フォント編集アプリ Glyphs Mini を使用して、フォントをデザインする方法を学びます。デザインのプロセスは、Illustrator で各グリフのベクター画像を作り、それをフォント編集アプリに読み込ませてフォントファイル化するという流れになります。

フォントデザイン初心者の方でも、グラフィックデザインの経験があれば Illustrator には馴染みがあると思います。筆者も仕事の関係で、元々 Illustrator に慣れていたという理由から、この方法でフォントデザインを始め現在に至ります。

使用するフォント編集アプリ Glyphs Mini の最新版は、「Glyphs Mini 2」(2023年3月現在)です。Glyphs Mini は、Glyphs の廉価版で、フォント編集アプリの中では比較的安価(2023年3月現在、App Store では7,400円)です。また、アプリの仕様は、Glyphs を簡易化した構成でより単純になっているので、初心者には使いやすいとも考えています。というわけで、フォントデザインをまず試しにやってみたいという方には、Glyphs Mini はオススメです。

まずは、基本を覚えましょう。それさえできれば、デザイン方法のアレンジも可能になります。

本書がフォントデザインの「基本の作り方」として、少しでもみなさんの役に立ちますように。



» Chapter 1

フォントの基礎知識

» Chapter 1

フォントの基礎知識

これから皆さんがデザインしようとしている「フォント」とは、いったい何なのでしょう？

そして、アルファベット書体の構成はどのようになっているのでしょうか？

フォントデザインを始める前に、まずは文字の基本的な部分を眺めてみましょう。

1. 「フォント」とは何なのでしょう？

読者の皆さんは「フォントとは何でしょう？」と聞かれた時、どう答えますか？「スマホやチラシの文字部分」という答えも、慣用的には間違っていないと思います。しかし、専門的に言うと、以下の条件すべてを備えているのが「フォント」です。

- (1) デジタル化した書体である。
- (2) 複数の、具体的な形を持った文字が、一貫した様式の集まりでセットとなっている。
- (3) そのセットが、コンピューターにインストールして使える一式のデジタルデータになっている。
- (4) そのデータをインストールすることによって、コンピューターやデジタルデバイスで表示できるようにになっている。

モリサワがWebサイトで公開している「フォント用語集」によると、『「書体」とは、共通した表情をもつ文字の集まりのことです。』とあります(※1)。そのとおり、「書体」には共通した表情があります。各文字のフォ

ルムには共通の規則性があり、それが、文字の集まり全体に一貫した様式を生み出しています。

このような、「書体」をデジタル化したデータが「フォント」です。主な格納場所は、Macなら、「システム」フォルダや「ライブラリ」フォルダにある「Fonts」フォルダです(※2)。こうした格納場所は、ローカル環境にある場合もあれば、クラウド環境にある場合もあります。モリサワのTypeSquareは、クラウド環境にある「クラウドフォント(Webフォント)」を、一時的に利用できるサービスシステムです。

なお、今ではあまり見かけなくなっている電算写植機にも、デジタル化した書体が搭載されています。この書体のデータも「フォント」の一種とされています。

また、「フォント」の種類には、アイコンを集めた「アイコンフォント」、簡易なイラストを集めた、「イラストフォント」もあります。もはや、「デジタル化した書体」だけが「フォント」というわけではなくなって来ています。

【Caslon】

FONT

【Helvetica】

FONT

【Cooper】

FONT

【Times】

FONT

【Futura】

FONT

【Dom】

FONT

■注

(※1)モリサワWebサイト内ページ「フォント用語集」→「書体とフォント」:
<https://www.morisawa.co.jp/culture/dictionary/1953>

(※2)他の格納場所には「ユーザ」フォルダ等があります。

(※3)モリサワWebサイト内ページ「フォント

用語集」→「グリフ」:

<https://www.morisawa.co.jp/culture/dictionary/1913>

(※4)モリサワWebサイト内ページ「フォント用語集」→「字体・字形・書体」:

<https://www.morisawa.co.jp/culture/dictionary/1924>

2. 「グリフ」にフォルムを与え「フォント」と成す

このような「フォント」ですが、フォント編集アプリを利用した実際のフォントデザインでは、各グリフに字形を与えていく作業があります。それは、日本語フォントであれアルファベットフォントであれ、変わりません。「Zapf Dingbats」のようなアイコンフォントでは、任意のグリフにそれぞれのアイコンの図案が割り当てられています。

さて、ここでいう、「グリフ」、「字形」とは何でしょう？まず「グリフ」について。世間一般に、用語の定義には多少なりとも幅がありますが、前述のモリサワの「フォント用語集」によれば、「グリフ」とは、『字体とほぼ同義語ですが、記述記号やスペースなども含めたものを指します。』とあります(※3)。そして「字体」とは、『図形文字の図形表現としての形状についての抽象的概念』とあります(※4)。

次に、「字形」について。同じくモリサワの「フォント用語集」によると、「字形」とは、『字体を、手書き、印字、

画面表示などによって実際に図形として表現したもの』とあります(※4)。

つまり、記号やスペースを含めた文字の抽象概念が「グリフ」で、その「グリフ」の具体的なフォルムによる表現が「字形」ということになります。フォントデザインの枠組みでは、「グリフ」「字形」の定義は、それで正しいといえるでしょう。実際、私たちが抽象的に認識している「A」「B」「C」…それぞれについて、具体的なフォルムを与えていくのがフォントデザインなのですから。

フォントデザインとは、そのような、「字形」の集まりを作っていくことともいえます。ただし、「フォント」というからには、その「字形」の集まりに一貫した様式がなければなりません。最初に戻りますが、一貫した様式をもって文字の集まりは「書体」となり、「書体」をもって、はじめて「フォント」となるからです。もちろん、そうした「書体」をデジタル化したデータが「フォント」であることは、いうまでもありません。

【UD 新ゴ】

ふいおんと

【リュウミン】

ふおんと

【Zapf Dingbats】



【ゴシック MB101】

ふおんと

【陽炎】

ふゐんと

【Abies】



■注

(※5)「エックスライン」については、「ミーンライン」の他、「エックスハイトライン」と呼ぶ例もあります。

(※6)後述しますが、フォントデザインでは、文字自体(「字面」と言う)の天地左右に余白をとった大きさの面を「仮想ボディ」とします。「アセンダー」はここでは、「エックスライン」から

「アセンダーライン」までの高さを指し、「ディセNDER」は「ベースライン」から「ディセNDERライン」までの高さを指します。Glyphs Miniでは、「アセンダー」は「ベースライン」から仮想ボディの上端までの高さを、「ディセNDER」は「ベースライン」から仮想ボディの下端までの高さを、それぞれ指します。

3. アルファベット書体の基礎構成



【図1】アルファベット書体設計のための基礎構成図

【図1】のような図を見たことはありますか？ これは、アルファベット書体設計のための基礎構成図です。アルファベット書体の成り立ちを図解しており、デジタルフォントが広く普及する以前の時代から、アルファベット書体デザインのための設計ガイドラインとして役立てられて来ました。

デザインの際、高さを揃えるべき箇所を示す水平のラインは、「ファイブライン(fiveline)」などと呼ばれ、それぞれに名前がついています。

【ファイブラインの名前】

- ・アセンダーライン
- ・キャップライン
- ・エックスライン(ミーンライン)(※5)
- ・ベースライン
- ・ディセNDERライン

また、ファイブラインで分割できる垂直の構成についても、それぞれに名前がついています。

【垂直の構成の名前】

- ・アセンダー
- ・エックスハイト
- ・キャップハイト
- ・ディセNDER

これらの名称ですが、実は、Glyphs Miniも含む現在のフォント編集アプリの中に生きていて、同一の用語が用いられている部分があります。ですが、この図で指すのとは異なる箇所を指していたりもするので注意が必要です。「アセンダー」や「ディセNDER」が、該当しますが、Glyphs Miniでの作業の際には気をつけましょう(※6)。



» Chapter 2 Glyphs Mini とは？

» Chapter 2

Glyphs Miniとは？

筆者はGlyphs Mini推しですが、いったいどんなアプリなのでしょう？

ということで、Chapter 2はGlyphs Miniの概要、それから、

Glyphs Miniをフォントデザイン初心者の方におススメする理由についてです。

1. フォントデザインの方法は複数あるけれど…

Glyphs Miniってどんなアプリ？ というお話の前に…。フォントデザインでのフォント編集アプリの利用方法は複数ありますが、初心者の方にとって、どの方法での作業がより容易かを考えてみます。

フォントデザインは、フォントの図案を考えてラフスケッチを描くという、アナログ作業から始まります。それから、こうしたラフを元に紙に下絵を描いていく(※1)わけですが、この後からの作業におけるフォント編集アプリの利用方法は、大別すると2つになります。

方法(A)、フォント編集アプリで各グリフの字形を描く→フォントファイルとして出力する。方法(B)、フォント編集アプリを使わずに、Adobe Illustratorで各グリフの字形を描く→その画像をフォント編集アプリに取り込む→フォントファイルとして出力する。

(A)と(B)、2つの方法の違いは、フォント編集アプリの利用を、フォントファイルの出力時だけにするか否かという点です。そして、それに伴い、各グリフの字形を次のどちらで描くかという点でも違いがあります。

(A)フォント編集アプリ

(B)Adobe Illustrator

さて、どちらで字形を描くのがより容易でしょうか？好きずきはあるでしょう。ただ、Illustratorに触れた経験が少しでもある・使い慣れているという方ならば、方法(B)の方が、容易だろうと思います。

フォントデザインの肝心な作業の1つは、各字形の(デジタルデータとしての)パス化です。場合によっては、念入りの微調整が必要となります。となると、より慣れたアプリでパス化の作業をする方が、ラクではないかと思う次第です。

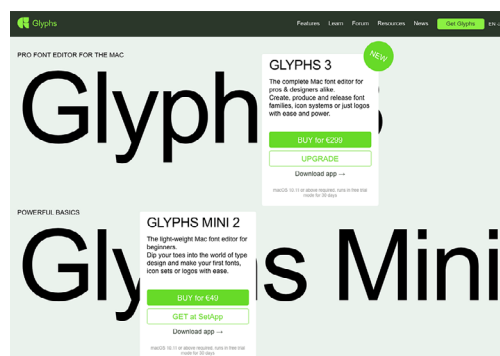
また、Illustratorで、書体のベクター画像はすでに作成してしまっているという、気の早い方もおられるかと思います。それなら、あとはフォントファイル化するだけですな！

字形のパス化は、無理にフォント編集アプリで行わなくとも良いでしょう。それは、フォント編集アプリの操作に慣れてからでも、全然遅くはないのです。

▼「Glyphs」の公式Webサイトの購入ページ

(<https://glyphsapp.com/buy>)

緑色のボタンから、Glyphs Miniの購入手続きができます。もちろん Glyphs も購入可能。両アプリ体験版あり。他のページには、チュートリアル等がありがたいです。



■注

(※1)フォントの図案を考えたりラフスケッチや下絵を描く段階では、鉛筆やペンと紙によるアナログな作業が想定されますが、タブレット(※専用ペン)等のデジタルデバイスに慣れていれば、そちらを使用いただいてもOKです。(詳細は後述しますが)ただし、下絵は最終的にはPSDデータとして保存します。

(※2)App Storeおよび Glyphs 公式 Web サイトでの2023年3月現在の価格。将来的に価格変更の可能性はあります。

(※3)Glyphs 公式 Web サイトでの2023年3月現在の価格。為替相場により日本円の価格が変動しています。また、将来的に価格変更の可能性はあります。

2. フォント編集アプリ「Glyphs Mini」ってどんなアプリ?

- 公式 Web サイト…<http://glyphsapp.com>
- Mac 版…あり (OS X 10.11以降)
- Windows 版…なし
- 日本語版…あり
- 価格…7,400円 (App Store での価格)
- 購入サイト…Glyphs 公式 Web サイト、App Store
- 最新版…Glyphs Mini 2 (2023年3月現在)
- サイズ…8.5MB
- 体験版…あり (30日間無料)
- 作成できるフォント形式…
OpenType、Web Open Font Format

上が端的にまとめた Glyphs Mini の概要ですが、もうちょっと詳しく…。Glyphs Mini は Glyphs というフォント編集アプリの簡易版・廉価版です。Glyphs は、Georg Seifert 氏らによってドイツで開発されました。初リリースは2011年です。Glyphs Mini も Glyphs も、現在では日本語版もあり、日本語フォントの編集にも対応しています。

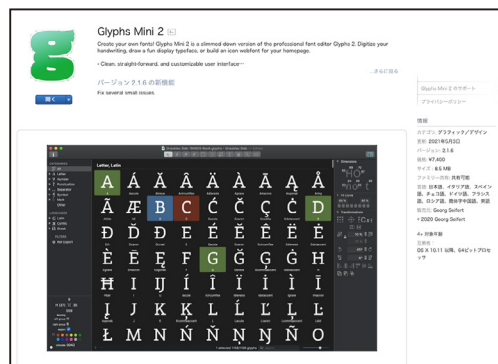
Glyphs Mini の初心者の方へのおススメポイントは、やはり容易な操作性です。Glyphs の簡易版として仕様には制限がある分、操作が複雑ではありません。それでいて、Glyphs Mini の利用方法を、先に述べた方法(B)のようにフォントファイルの出力時だけに

限定するなら、機能は十分ともいえます。

そして、初心者おススメポイントは、何ととっても価格、1万円もしません(※2)。それに比べ、Glyphs は299ユーロ、日本円で4万円台(※3)。使ってみたくても、購入には迷いが生まれてしまうかも? 何しろお金がかかることなので、まずは廉価版の Glyphs Mini を試し、感触や操作性を確かめてみてから Glyphs の購入の是非を判断しても良いと思います。

以上のように、Glyphs Mini を初心者向けとしてご紹介しましたが、筆者も Glyphs Mini を使用することは今でもあります。アイコンフォント・イラストフォントのファイル書き出しには、むしろ単純な Glyphs Mini の方が適しているという気がします。Glyphs は優れたアプリだと考えていますが、Glyphs Mini も使いやすく、まだまだ手放せそうにありません。

▼ App Store. Glyphs Mini はこちらでも購入できます。



■注

(※4)字詰め設定の調整:40~43ページ参照。
カーニングやスペーシングによる、グリフとグリフ間のアキの設定についての調整。
(※5)テキストツール:40~43ページ参照。テキストツールを使うと、デザインアプリ等で、実際にテキストを打った状態をプレビューできます。Glyphs Mini では、こうした見た目を確認しな

がら、字詰め設定の調整ができます。
(※6)「フォント情報」の設定:33~35ページ参照。Glyphs Miniを立ち上げて、最初に行う作業。設定項目はGlyphsよりは簡略化されていますが、肝心な部分は削除されてはいません。
(※7)グリフの追加:36~37ページ参照。

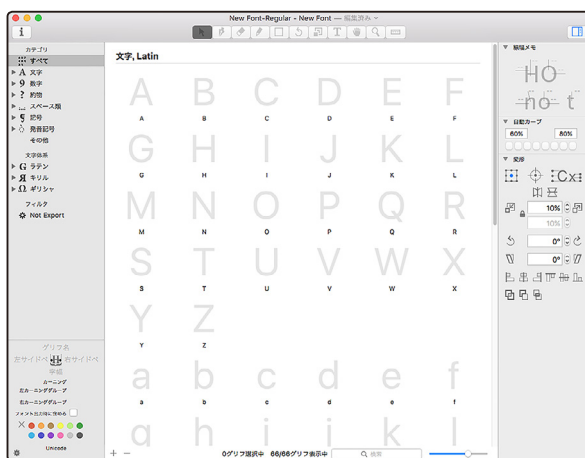
3. Glyphs Miniの使いごこちは？

Glyphs Miniの使いごこち。一言でいうと「解りやすい」。基本操作は直感的だと思います。ペンツールの使用感はIllustratorやPhotoshop等のAdobeのアプリのような感触です。他、詳細は後述しますが、スペーシングやカーニングといった、字詰めの設定が(※4)が、テキストツール(※5)で見た目を確認しながらできるようになっています。直感的でもあり、Adobeのアプリを経験している方には解りやすいかもしれません。

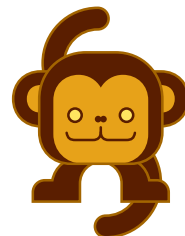
それから、これはフォント編集アプリに限らないのですが、デザイン系のアプリは、使用の初動であらゆる設定をしなければなりません。Illustratorでも「環境設定」等、最初にいろいろと設定します

よね。Glyphs Miniはその辺りはかなり平易に設計されているのではないのでしょうか。「環境設定」はデフォルトのままいけますし、「フォント情報」の設定(※6)もGlyphsよりも簡略化されています。こういった設定があまり複雑だとそれだけで挫けそうになりますが、GlyphsMiniなら、それほど心配ないと思います。

また、「グリフの追加」(※7)等は、手段が複数あったりします。ツールの基本操作を覚えてしまえば、あとは、ユーザーの判断次第。ご自身がやりやすい手段を選択していくことも可能です。そういった点はユーザーとしては嬉しいところですね。



見て見て!!
Glyphs Miniの
ウィンドウだよ



03

» Chapter 3 フォントデザインの手順